

目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

●学習内容

1 学期	20 時間	2 学期	28 時間	3 学期	22 時間
<b>第 1 章 歌唱</b>	15	<b>第 3 章 器楽</b>	28	<b>第 4 章 創作</b>	14
1 発声法		1 キーボード等による合奏		1 コード進行による創作	
2 校歌		2 ギター		2 詩にメロディーをつける	
3 イタリア歌曲とドイツ歌曲		・メロディー		<b>第 5 章 鑑賞</b>	8
4 J ポップを歌う		・コード		1 楽曲	
5 合唱		3 ハンドベル		2 音楽をテーマにした映画	
<b>第 2 章 楽典</b>		4 和楽器			
1 音名、音符、休符、拍子、楽語	5				

教材

教科書:「MOUSA1」(教育芸術社)  
副教材:高校生のための「音楽研究ノート」(教育芸術社)

授業の進め方

- ・歌唱や器楽において、ポップスやクラシックなど幅広い音楽を扱う。
- ・仲間とのコミュニケーションを大切にする。
- ・実技を伴うものは單元ごとに実技試験を行う。また1・2学期は期末試験を行う。
- ・単純に演奏するだけでなく、考えたり話し合ったりする活動もある。

●身に付ける能力とそのレベル

評価の観点	知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度	
評価規準	活用できる (できる)	楽曲の文化的・歴史的背景や構造と、曲想との関わり及びその多様性について、音楽活動を通して理解している。	音楽的な見方や考え方を働かせて、音楽表現を創意工夫し、表現意図を持っている。	音楽活動の喜びを味わい、主体的、協働的に学習に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	音楽表現を創意工夫したり、自分の表現意図を音楽で表現したりするために必要な歌唱、器楽。創作の技能を身につけ、創造的に表現している。	音楽的な見方や考え方を働かせて、楽曲の演奏を解釈したり、生活や社会における音楽の価値を考えたりして、音楽の良さや美しさを創造的に味わって聴いている。	自らの学習状況を把握し、それを踏まえ試行錯誤するなど、自ら学ぼうとしている。
評価方法	実技試験 期末試験 練習の取り組み他授業観察	実技試験 期末試験 練習の取り組み他授業観察	作品提出 プリント提出 練習の取り組み他授業観察	

## 単元別 評価規準

### 第1章 歌唱

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	正しい発声法で歌うことができる。	歌詞や曲想を理解して、伸び伸びと歌うことができ、表現している。	校歌を暗譜して歌うことができる。
	習得する (わかる)	イタリア語やドイツ語の発音がわかる。	グループで合わせる時、ハーモニーなどに留意し、アンサンブルの楽しさを味わっている。	意欲的に演奏しようと努力している。

### 第2章 楽典

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	音名、音符、休符や楽語などについて正しく理解できる。またト音記号も含め正しく書くことができる。	音符や休符の長さの割合を正しく理解し、演奏に反映することができる。	理解しようと意欲的に取り組むことができる。
	習得する (わかる)	日本、ドイツなどの音名を正しく覚える。また音符や休符の長さの割合を理解する。	反復記号なども理解し、演奏に反映しようとしている。	楽典全般の知識について、理解しようとしている。

### 第3章 器楽

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	五本の指で鍵盤を弾き、メロディーを奏でることができる。またギターではメロディーを弾き、簡単なコードを弾くことができる。	アンサンブルの楽しさを味わうことができる。	意欲的に器楽に取り組むことができる。
	習得する (わかる)	正確にチューニングができ、リズムやタブ譜を正しく理解しようとしている。	ギターのコード奏では、様々な奏法に取り組もうとしている。	合奏を楽しもうと努力している。

### 第4章 創作

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	基礎的なコードを理解し、構成している音のみで正しく創作できる。	言葉の持つリズムやイントネーションに留意し、メロディーを創作する際に、違和感なく創作できている。	意欲的に創作に取り組むことができる。
	習得する (わかる)	詩の意味合いに相応しメロディー作りをしようとしている。	音域に留意し、歌詞の持つリズムなどに気をつけながら創作しようとしている。	期限までに作品を提出しようと努力している。

### 第5章 鑑賞

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	楽曲の種類や演奏形態、歴史的背景を理解することができる。	各楽器(管楽器、弦楽器、打楽器など)の特色を理解できる。	感想文など意欲的に記入することができる。
	習得する (わかる)	それぞれの作曲家について、意欲的に研究しようとしている。	音楽史に触れ、時代別に特色等を理解しようとしている。	作曲年代の特色や楽曲について、グループの中で意欲的に自分の考えを述べたり、話し合ったりしようとしている。